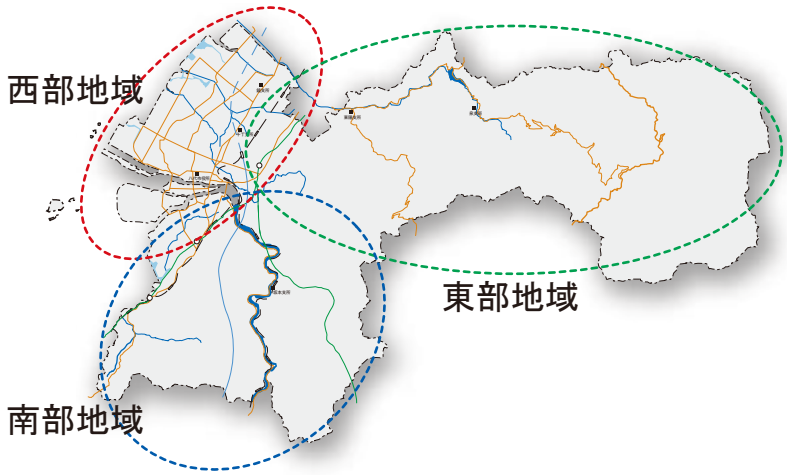
第4部 地域の特性を活かしたまちづくり方針



「地域の特性を活かしたまちづくり方針」策定の趣旨

平成17年８月１日、八代市と八代郡内の坂本村・千丁町・鏡町・東陽村・泉村の１市２町３村が合併して、人口約14万人、面積約680ｋ㎡を有する「八代市」が誕生しました。

本市は、地勢的に広範囲の合併のため、さまざまな特色が見られます。今後は市の一体感の醸成を促し、均衡ある発展に資するよう地域間の連携や交流を深める道路網の整備などに努めるとともに、それぞれの地域の特性を活かしたまちづくりをすすめていくことが必要です。

このため、地域の特性や現状、課題を明らかにし、基本構想に掲げた施策の中から、特に地域の課題に応じた発展の方向を盛り込んだ方針を策定し、地域の視点から具体化、重点化を図っていくこととします。

地域の設定

広範な市域において、日常生活圏や歴史的経緯、地勢、土地利用の状況を基本に、今後の地域間の連携や地域バランスなどを考慮して、３地域（西部地域・東部地域・南部地域）に区分します。

地域の特性を活かしたまちづくりの推進

これらのまちづくりをすすめていくうえでは、市民と行政の力をあわせた取り組みが求められます。そこで、この方針の策定にあたっては、市民アンケートの意見や地域別ワークショップで出された、地域のまちづくりに対する市民の意見などを最大限に反映して「現況と課題」、「まちづくりの目標と施策の方向性」を設定しました。

また、次のような考え方で市民と行政の協働のもと、地域の特性を活かしたまちづくりをすすめていきます。

◆市民の自主的・主体的な参画による地域振興

◆地域間交流や連携をすすめ、それぞれの地域の個性を重視した地域振興

西部　地域

▶ 現況と課題

西部地域には、公共施設や工場、商業施設などが多く立地し、また、県下最大の港湾八代港があります。さらには、九州新幹線、九州縦貫自動車道、南九州西回り自動車道などの交通アクセスに優れた地域であることから、地理的優位性を活かした企業誘致を推進することにより、産業の活性化や雇用の創出が求められています。

また、八代海に面し、広大な干拓地と豊富な水資源に支えられた八代平野が広がる西部地域においては、米・い草のほか、トマトのハウス栽培などを中心に農業が盛んに行われています。しかし、近年は生活様式の変化や輸入農産物の流通などにより、い草をはじめとした基幹作物が影響を受けているため、商品力の強化や他産業との連携が求められています。

また、漁業においては、安定的な漁獲条件を確保するため、八代海や球磨川河口域の環境保全が求められています。

地域の経済活力の低下や少子高齢化の進行により、近年、まちのにぎわいが失われつつあり、特に、八代地区と鏡地区に形成されている中心市街地は、人口の流出、空き店舗の増加、ロードサイド型や郊外型大型店の出店などにより、居住地・商業地としての活力の低下が著しくなっています。

一方で、九州新幹線の全線開業に向けて新八代駅周辺の基盤整備がすすんでおり、来訪者の増加も期待されることから、交通インフラの優位性を今後のまちづくりに活かしていくことが求められています。

【八代港】

【八代くま川祭り】

西部地域

▶ まちづくりの目標と施策の方向性

まちづくりの目標　八代の産業を牽引するまち

新幹線や高速道路などの交通利便性や肥沃な八代平野などの地理的優位性を活かし、八代の産業を牽引する活力にみちた元気あるまちづくりをすすめます。

施策の方向性

○　新幹線や高速道路、八代港などの交通利便性を活かし、企業誘致をすすめ、若者も中高齢者も働ける雇用の場の拡大を図ります。
○　い草を中心とした農業を振興するため、い草、トマトなどの農産物のブランド化を支援するとともに、畳の良さを広くＰＲするなど、情報発信を行います。
○　農業の担い手を育成するため、子どもの体験学習や農家の技術力の向上を支援します。
○　安全・安心な水産物を提供するため、水質保全と魚場の整備をすすめるとともに、栽培漁業を推進し、安定的かつ継続的な漁業経営を図ります。

まちづくりの目標　人が集まるにぎわいのあるまち

中心市街地の活性化や新八代駅周辺の整備などをすすめ、都市の魅力を高めることにより、人が集まり、にぎわいのあるまちづくりをすすめます。

施策の方向性

○　中心市街地活性化基本計画に基づき、商業の活性化、居住人口・交流人口の増加を図ります。
○　交流拠点として新八代駅周辺の整備をすすめ、市内各地域に点在する豊かな観光資源を結ぶ観光ルートの確立を図ります。
○　農業や漁業を観光に活かすため、グリーンツーリズム・ブルーツーリズムなど体験型観光への取り組みを促進します。
○　妙見祭や、やつしろ全国花火競技大会をはじめとした各種イベントや、スポーツ拠点づくりの推進などの大会誘致を通じて市外からの集客を図り、市全域へのぎわいの創出につなげます。

東部　地域

▶ 現況と課題

東部地域は、自然豊かな山間の地域で、河岸段丘や山腹に集落や耕地が点在しています。主な産業は農業で、生姜やお茶が特産品となっています。また、九州中央山地国定公園区域を含む広大な山林など豊かな自然により、古くから林業が盛んに行われてきました。

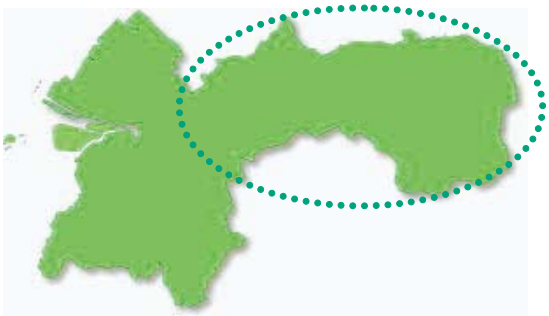
地域の東側、九州最後の秘境、平家落人伝説を秘める五家荘には、毎年、多くの観光客が訪れています。また、地域の西側は、種山石工の発祥地として知られ、現在も多くの石橋が残っており、五家荘地域とともに東部地域の大きな観光資源となっています。

しかし、近年は、農林業を取り巻く状況が厳しく、観光などの第三次産業に比重が移りつつあります。このため、活力ある地域づくりのため、豊かな自然を守り育むとともに、地域資源を活かした観光産業を軸として、雇用促進を図っていく必要があります。

また、東部地域は、急傾斜等の危険箇所が多く、集中豪雨などの自然災害による大きな被害が多発しており災害防止を促進する必要があります。さらに、過疎化・高齢化により消防団員等も不足している状況にあり、防災体制の強化をすすめる必要があります。

【梅の木轟公園吊橋】

【久連子古代踊り】



東部地域

▶ まちづくりの目標と施策の方向性

まちづくりの目標　豊かな自然とふれあい、歴史と伝統が息づくまち

自然資源の保全に努め、自然景観を活用し、人と自然が共生するまちづくりをすすめます。また、歴史的遺産や古代踊り、神楽などの伝統芸能の保存・継承に努めます。

施策の方向性

○　豊かな水や緑を保全するため、自然のすばらしさを再認識する環境学習の機会を創出するなど、市民への意識啓発を行います。

○　自然環境の保全・保護を行うため、希少な動植物などの生態系に配慮した土地利用や施設整備に努めます。

○　古代踊り、神楽などの伝統芸能を保存・継承するため、保存活動を推進します。

○　森林が持つ国土保全や水源涵養などの災害防止機能を高める森林整備をすすめます。

○　生活及び地域間交流の利便性、安全性の向上、また、災害時における迂回路としての役割などを考慮しながら、計画的な道路整備を図ります。

○　土石流が発生する恐れの高い場所やがけ崩れ・地すべりなどにおける危険箇所の土砂災害防止をすすめます。

○　緊急時通信網の利活用や消防団員の確保、自主防災組織の設立支援など防災体制の充実を図ります。

まちづくりの目標　美しい風景と魅力ある特産品に笑顔が集うまち

お茶や生姜などを活かした農林業の活性化や五家荘、石橋などの特色ある観光資源を活かした観光振興を図り、地域間交流をすすめ、人が集うまちづくりをすすめます。

施策の方向性

○　高冷地野菜、お茶、生姜や椎茸などの特産品のブランド化・ＰＲに努めることなどにより、農業振興を図ります。

○　林道などの生産基盤の整備や適切な森林施業の実施に努めるとともに、特用林産物の販売促進等に取り組み、豊かな林業資源を有効活用した林業振興を図ります。

○　石橋などの歴史的遺産や五家荘などの観光資源を中心に、新たな観光ルートの形成を図るとともに、観光案内人の育成、グリーンツーリズムの実施などにより、観光の振興を図ります。

○　自然、歴史、文化など特色ある観光資源の活用を図るとともに、これまで観光資源として認識されていなかった地域の名所などを観光資源として活用を図ります。

南部　地域

▶ 現況と課題

南部地域は、日本三急流の一つである球磨川が地域の中央を南北に流れ、急峻な山地の多い東側と、比較的標高が低く耕地が広がる西側に分かれています。

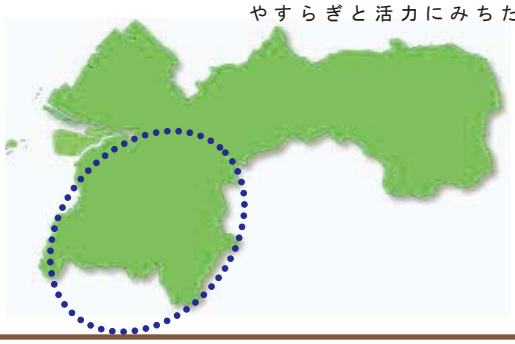
地域の東側では、農林業が発展してきましたが、近年の農林産物の価格低迷や基幹産業だった製紙工場閉鎖等に伴い、担い手が都市部へと流出し人口減少が著しく、高齢化率も高くなっています。また、観光の中心であった県下有数の古い歴史を持つ西側の日奈久温泉では、観光客のニーズの変化などにより、観光客が大幅に減少しており、にぎわい再生への取り組みが求められています。

今後は、安定的な雇用がなされ、人口流出の歯止めがかかることに期待が寄せられる一方、子どもから高齢者まで安心して元気に暮らせるよう予防医療や福祉施策の充実とともに、世代間交流の推進、地域コミュニティの組織強化が望まれています。

加えて、球磨川をはじめ、その支流沿いに多くの自然が残っていますが、急峻な地形のため、山崩れ、地滑り等の発生しやすい危険箇所も多く、特に、球磨川や二見川沿いの地区では、梅雨期や台風シーズンの大雨の際には河川の氾濫が繰り返されており、計画的な河川改修とともに、緊急時の避難体制づくりなどが望まれています。

【日奈久温泉】

【八代工業高等専門学校実習風景】



南部地域

▶ まちづくりの目標と施策の方向性

まちづくりの目標　清流と緑、観光資源を活かしたうるおいのまち

球磨川をはじめとした豊かな自然や古い歴史をもつ日奈久温泉などの観光資源を活かしたまちづくりをすすめ、交流人口の増大を図ります。

施策の方向性

○　河川工事や漁港整備等が施行される際は、景観や生態系に配慮した工法等の導入等を促進し、環境保全に努めます。

○　球磨川に代表される豊かな自然・景観を、観光や環境学習の資源として活かすために、自然とふれあえる場の創出に努めます。

○　日奈久温泉の観光地としてのにぎわいを再生するため、基盤整備をすすめるとともに、イベントの開催などを充実し、市内外へのＰＲ活動を積極的に行います。

○　防災機能を有した公園の整備をすすめ、子どもたちが楽しめる場を創出するとともに、災害時における避難場所の確保を図ります。

○　がけ崩れ・地すべりなどの危険箇所の対策事業と、護岸崩壊や漏水などを防止する河川改修などの整備を促進するとともに、災害時における迂回路機能を併せ持たせることなども考慮した計画的な道路網整備を推進します。

まちづくりの目標　若者が育ち、誰もが生きがいをもって暮らせるまち

八代の未来を担う人が育つまちづくりをすすめるとともに、子どもから高齢者まで生きがいをもち健やかに暮らせる福祉の充実したまちづくりをすすめます。

施策の方向性

○　短期大学・高等専門学校などの教育機関と地域との連携による取り組みを支援することにより、地域の活性化を図ります。

○　障がいのある人が自立するための生活訓練事業の充実を図り、生きがいのある生活を送れるよう、関係機関が連携して就労支援を推進します。

○　社会参加に対する高齢者のニーズに対応できるような環境づくりをすすめるとともに、生涯学習機関・団体との連携を図り、自主活動などの支援を行います。

○　誰もが健康で生きがいを持って暮らせるよう、世代間交流や地域間交流など各種の交流をすすめ、疾病や介護予防の推進と福祉サービスの充実に努めます。

○　地域コミュニティ独自の取り組みを継続発展できるよう支援し、市民間のコミュニケーションの充実を図ることにより救急体制づくりにつなげ、地域の防災・防犯へ役立てます。